



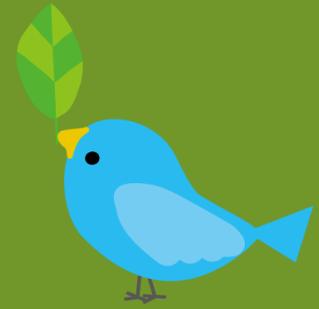
旭ヶ丘



おしゃべり会



ミニ協議体：チーム旭ヶ丘



こんにちは！

生活支援コーディネーターの
田中です。

市内様々な地区で、おしゃべり会を
開催し、誰もが安心して元気に暮ら
せるために、皆さんと「支えあい」の
ある地域づくりを一緒に考えています。
今回は、旭中学校地区と北中学校
地区で開催された「おしゃべり会」の
一部をご紹介します。

おしゃべり会を重ねるにつれ、「あつ
たらいな」を実現するための話し
合いや活動の場が少しずつ生まれ
ています。今後はそんな地域の活
動を沢山ご紹介していきます。

よっかいどう支えあい通信

2018年度第2号 わたしと地域の繋がり

『みんなで支えあう笑顔の街・旭ヶ丘』

旭ヶ丘の有志が、旭ヶ丘が限界集落にならないよう、「みんなで支えあう街づくり」を進めるミニ協議体《チーム旭ヶ丘》を立ち上げました。四街道市では「参加・支援・相談」の【3つのS】が身近にある地域づくりを推進していますが、旭ヶ丘では、とりわけ地域の助けあいを基盤とする《生活支援》に重点を置き、ゴミ出し、清掃、草むしり、病院の付添いや買物の手伝い、電球の交換、お話し相手等のちょっとした困りごとの支援を通して、近所同士が「どうしているかな？」と気かけられるような地域を目指しています。チーム旭ヶ丘では、地域にお住まいの方々に、写真のような通信を作り、活動を広報しています。



参加の S

参加する場所・
居場所がある

3つの S

支援の S

生活を手伝って
くれる支援がある

相談の S

相談できる
場所がある

発行

〒284-0003

千葉県四街道市鹿渡無番地

総合福祉センター分館

四街道市地域包括支援センター

生活支援コーディネーター

田中 悦子

電話：043-420-6070

FAX：043-424-6707

発行：2019/2月



北中学校地区では、支えあいの大切さを広げ、理解者を増やしていくために
地区社協とコラボして福祉講座を開催。その後、各小学校エリアごとに
地域の支えあいを考える「おしゃべり会」を行いました。その中でお話をくださった
笠原さん(つくし座在住)の『私と地域の繋がりのストーリー』をご紹介します。

私は昭和 49 年に四街道に転入しましたが、各地を単身赴任し 62 歳でやっと
定住。75 歳まで働いたので自治会活動には関わらず、地元での仲間づくりは専
ら妻が担ってくれました。しかし妻は平成 27 年 10 月に病で亡くなり、私は独居老
人となりました。今は「遠く離れている子供たちや親類縁者より、近くにいる信頼の
置ける他人の方が、いざというときには頼りになり、役に立つ」という諺が身に沁みて
理解できます。一時を争い救急車を呼ぶ時を想像すると、痛切にそう思います。



さて、妻は凄い財産を残してくれました。それは生前、実の姉妹のようにお付き合いをしてくださった、お隣の A
氏の奥様です。毎日のように「安否確認を兼ねて」と言いながら、あつあつの旬のお料理を差し入れてくださ
います。緊急通報装置の協力員もお願いしています。また、今でも妻にお線香をあげに来てくださる方もおられ妻に
は今も助けられている思いがします。

私も自立しなければいけないと思い、自治会活動や行事には積極的に参加してお世話になっています。今は
親しい友達も出来て、晴れの日にはグラウンドゴルフに興じたり、カラオケやハーモニカを楽しんだりしています。ま
た、元気なうちは少しでも社会貢献をしたいと考えて、介護の集い「虹の会」のお手伝い等に積極的に関わる
ようにして頑張っています。高齢者の心身の健康を保つためには、まず「家にこもらないようにすること」だと思いま
す。そのためには、高齢者の身近に、気軽に集まれて交流やおしゃべりができる場所があれば、みんなが元気に
なり、お互いに助け合える仲間も出来ると思います。

(紙面の関係上一部省略しています)

各地区で「支えあいを考える会」や「おしゃべり会」がスタートしました



さつきヶ丘



鷹の台



栗山小区



みそら



亀崎



旭公民館